る。殿局益久震神、國民一願悉く

と含で、勝子の歌曲に対する内外、 遠からず無飯 屋郭の 一員として 問い、 は勝子は 過去一万月 縁の 間の 出陣といふ新しい 山級を印し、 原、 は勝子は過去一万月 縁の の出陣といふ新しい 回転 という また 東部歌の ほわに 半、 単症

征け 敵は畏怖せむ

板垣軍司令官激勵の辭

激励の鮮

しめつつあり、而して大東西

解放して壁域を八個に布かん

民会衛衛軍に於て見事合献し、即 とする日本男子たる勝子の本様や日本人の際は戦場所に於て入監整 想ふべく、この順上の楽器と関して表示をある。

機を細てころ朝鮮半島に領兵制置

劇功を刮目期待す

医に単はるべき背里の上に聞る方

上版館されるのである、最も何も

出陣學徒壯行大會

大方針の木動

温情溢る總督、軍司令官の言葉

小磯聯盟總裁壯行の辭

機を撃墜

発一岬に敵一部上陸

。 帝國海軍航公部隊は十二月廿六日正年ポルダン 層の 政職送船割を崩襲し左の戦撃を

|廿二歳(内不確實八機)を撃墜せり、我方の損害 |佐炎上 | 一箇所 | 我方の損害 未闢還上機決 特殊輸送船 | 重《兵員満載》魚雷艇 | 隻 帝國海軍航空部隊は十二月廿七日午前『ラバラル』に來襲せ 撃墜 十八歲、內不能買四歲

海鷲、八面六臂の活躍



大型上陸用州原

大型、何に歌踊が虚然であったかを終す。・歌風・歌陣地三ケ形を感じ炎上

8 1 BD

3 8 HULL 灣方面

隻を監唆(監戒をはじりが置)の戦

ウルを目標として紹介なら個画感。力なる進氏院を迅壓さしめかして数の作戦が同か回からラバーである。数は今次の上陸に

敵は益々兵力を増强

「瀬川古八日南豊)常郷方面に呼い 原するわが冬季戦攻作戦の西帝戦 のであるない。 のであるない。 では、日南豊)常郷方面に呼い では、日南豊)常郷方面に呼い

地區で包閣一動より高別し得る最大の標識であ

社會式標準製造田 松本

船八機を屠る鷺畔

編隊を指で雨季明は後第二回目のチッタゴン・攻撃を敢け、「なルツ諸級OC革軍が入口同盟」により方国権副院部隊の務線は、廿六日戦爆

、人類あらく一致にしむる所認も一の信報の影響なる。同して思等の一の下に筆音品一般となり

陸鷲,チツタゴン爆撃

に補職

るとき、その歌には唯任際の発行 は医型総動を以て威峰地に突撃す

時には毎日缺かさず 部の冷威症・生理障 部の冷威症・生理障

エスチモンル カ女性ポルモン朝です。

る。例へばかの攻威機が敵の間限 顧みる旅地なさところに過職があ

頭頭の狸に突入するよき、

彩水土

になって、 になって、

國大道

あるこどを置して厳りめるではない。

いが、皇中の兵間こでは三半年別

見よ、演繹悟人の年間回順な呼の一

・ する本無数の個の管理とする ・ て止ぎない、以上を以て勝手に選 ・ ある本無数の個の管理とする の一歩をして、前終の製品らしむ 期待してゐる大真心殿史上の組織物待してゐるのである。簡子が今

職大艦/配して 長)一月三日東上、廿日宮陽坂の安定等を残害の | ◇満瀬米藤氏(同取締役)廿八日四年週間20次の | ◇満瀬・金三氏(朝鮮消離・工薬証の決証を残害の | ◇満瀬・金三氏(朝鮮消離・工薬証 ◇竹田武男氏(贈品組常務)南鮮

···急 告…



文緒子のめざましき助功を、割目

息

治院の原理学により歌戦を沿して観びの光明に集の金貨等を出しなるい。そして早くこの方法 で無きいと無料送呈いたします。 見た」と書いて左記へへガキなお 述ふを止めて今スグ『京阪日報で 功應山德林寺

國民動員連絡會議 卅日に初の會合開催

|魔滅決矩にもとうき國民動員画||小売専用からそれへ)正式に数陽| 「東京電話」 摩生省では去る七日| つたが、このほど数員を決定。 音段

|各大な対象の強制を認さつくめ、第0倍領には國民制度が失敗進行。ついて臨時を登回ることをより、安全行うた。しかして密島およびが、民制員に関する信田の直域基準にある。

青年の熱意を要求

那須陸軍兵務局長福岡で語る

一下灰旗、子蘭十一度世の西部隊

田子部十一時俸多獨海特悉強一

機の自今回の関係の構造など 感謝にあふれる廿八日の出

大久保公使新京着

■く正しい析説征服の選によりで

を必須取の事

への心臓ない!

蘇

である。かくて経営不敗の南方取 おける航空一行った、諸子は先づ、鼠心助要ご

空隙の威力圏内における航空決定 **的金属の末** は沿た着き東域の窓を叩ぎ、暴域

概における。 けき 一て 金門 を 八つ たら 歌 題と機能の あり、前続 一片不動の誠心 を懸き 一片不動の誠心 を懸き 一片不動の誠心 をも目 かまの 解を思らの 心とし、 郷白 解は絶對に競物である。既に身に ならぬと難く、資敵に頭切って行かねば らない。而して如何なる監影網も 用心よ、之を無用に振廻してはな つけた整備は必要に限じて之を活 献服在の精師に徹立よ、理解や撤 に対する片々だる殴りを棄て、路 これが昼國軍人たるのは煉である

興節の精態は偶然に成つをので 朝日

會 对连续 今村 英 生 順公司 吉川英治審 監費 て生ぎいいた一代の英格無田加水の出年時代を翻子とし 繁型商得く穀鋼時代に生れ勝動の時代を翻子とし 新聞社刊醫驗品的 水層等 B 6 判:四五〇頁

朝日新聞社織

B5門口爾共二四大

ラハウルを目指す数の反文企画

内の石炭配給は「日約〇廛」と願じ幹部の猛省を促した、演説

るところによれば、米國海軍は Fン電が海軍筋の営として報道す人廿七日同盟】 廿七日 OP ワシン

原因は運搬賃の低位

城

石炭の配給難

空冷式に統一ステイン

全海軍機ワテ

號年新。

路周案に対する答申案を附職

說社

戦局を正しく把握せよ

き、を認識して、各人の生活 あるものは楽してこの歌扇の正

間度々の攻防版を繰返へしてゐ

酸と正確なる形態があるとして

は前夜の破裂に解ひしれて、

月八日ハワイ蜘珠殿に隣つた松

微うても見よ。一昨年の十二

らう。まして習版と機能性を有

また団民の世職、駅酸思波に對

る如く『末だ数に対し数命節

ぬ」のである。今こそ回日

四類・前各類以外の物品

土石類、鉱物および同 陶磁器、硝子および卵虫品

心密期間) 定效

紛れて、個人的な欲離のまくに

で決定、日間を通ずる質糊自給の耐傷をはからんとしてあるが。現 の失魔確定期駆敗戦中の一項にも銃役の増載及び職保に関する件 なす食権機関に収出を頂しつつめり、昭和子 農家を國家要員へ 西石されねば ならぬもので あ ゆる人類の生の條件を超越して の脳群の悪魔である。脈部は凡 食糧自給强化對策決る といへるかどうか。年末匆忙の てしてゐる 國民は果して ない

- の食糧事情にかんがみ廿八日の料論で「食糧自給熊勢・電化菌衆要」

情報局發表 (十三月十

是午後三時) (2個自給成期間化)

輸出人談計の統一化を企画し、京年 促傷に食するため共榮國各地域の 船舶を通ずる計構交易の間層なる 【東京館館】大観客では大東龍共一部路中であつたが、今回廿九日村 日滿輸出入統計制定

す自作機の側殻を配掘し、砂腸増融を捌さんとするものである。 三時間報局より左の如く差談された、また師日の阻蔽で『自作版別 の機を終て開職決定の週びとなったもので、この内容は廿八日 食糧自給强化對策婴綱

共楽圏交易周滑を促進

大殿省發表

電腦し得る如く考慮し作成した

本品目製は酸紫かつ平島を置

「阿化、技術指導の間新光質、

の戦、その他意振増戦に舒加

さらに左の関環を勝ずるも

完璧期才國民動員

口調査罪内地で實施

保するの國家裝儲廠々疑切なる

一、方針、日曜を通じ

薄幕に觸接機誘導

になってゐた語派員とちは一日一

と思うを追踪である。 廿八日

がその際に計算も物の壁の登録をギルバートの事に挙げてしまうた、それにも増して一個の所領事は脱型部隊により難けられた。際に掲載二年の前島を飾るに相談しい続々たる職種の地味がである、だ

フワ、マキン開島で開陳がわれに十数倍する個大部隊を超へ殴つて顕微数日、遂に刀折れ、

| 最玉本・ | 機関の神と化したことである。 あく | 機らざる | 機切削の第十千

殿監験に巨野の限を飾らせ、ここに十一月廿八日の緯急動類交響について第四次ギルバー下語ならはこの用き散を見てくれていた遊形をあまずかへて巨戦無勝の海軍は引煙きの場所立立には

「寒鬱」以大破疾上、飛行機自廿五處壁線といふ前代末間の大衆異が値が割日を出でずして帝國那に 例太不祥の乙基地林島斯里東道班灣邊同盟)三次にわたるギルバート諸島州師公置で實合體論は「

第四次ギ島沖航空戦記

夜あをりマキンに近寄り後郷沿流の東南〇の眼の山地にあり、今 の東南〇の眼の地域にあり、今

不振不用の友知動技権が導くまく

はあまりに最か過ぎる近頃

重巡、瞬時に確沈

型権強闘一隻からは自然の火焰と

れば措現員はやはり通信県取な一地監修は終元必扱の監監監察はお師で、一體して機上の人となった『空母を主目標に全員祭職

ンと振り飛音を胴中へ抱べこむ

工業では一月八日臨時株主義會を開催、増査並に定欧្藤原の件を附藤する

三國石炭總會 三國石炭 は自認的機能の止むなきに至るも

後一般を中心とするものでマキンの路だとつくく、思ふ、動は空

の場間をやる気かも知れぬ、けふ

の攻略はその郷田時を練聞して民一島歌中は、いつの間にが副会長、 の攻略はその郷田時を練聞して民一島歌中は、いつの間にが副会長、

樹曜作業中の弁職に機能輻射をそ際は敵の右核へ『止め』の霊殿と そして右に廻った指揮官機ほかー 三隻の左松を狙つて必 左に大きく旋回した一家は鞭脳配

率先指揮官機奇襲

續く

雷撃に屠る一字母

触してゐるのしか見えないていま て來たのだ。三隻でもやつて いましい。だが折角器い所をそう

た左一線の選ぶが見事決まつ

を総る単巡一妻とが2の学戦と町

に分れて記降下した。敬砲火が

養糧生職に動する関係的意

伴の軍機生産、食物生産および空

八日定例超職において昭和十九年

ととしこれに関する事務は内閣師

調査の範圍

五、調査方法、顧序

) 厨房署の有無。(六)所の別。(四)年間数〈年) にいりが終 (七) の第上の中立 第、(七) 所

目下取引員の貨額を設置調査研究

自作農創設の促進

食糧增產方策

八回総治は廿八日午後二時より前

自作版の感覚についてはこの際一一各関節、各系質は高、きるに質相に、一般は一般の感覚についてはこの際一一各関節、各系質は高、きるに質相に

情報局發表 (ナ)月二 鮮滿の電力期待

へ東亞各地の

と東部打合せのため原上中であつ 物線医を脂肪レイ來館の接続を始ぬ時代主脳圏に出席男々中央原盤 小機能質・板垣華司令官、田中戦 **於北支**团被爾姓認戴澤陽關一氏。

べたのち田子館優貴電路で四級印

入城の津島北支開發總数語る

抗戰經濟破綻

も野菜との他共動館階級にはて、および印刷物 「北京電話」大東田歌争第三 毛澤東が悲鳴

笑止にも反帰派の年なりと呼號す

第九類「動植物」、助植物産品おより、同学品 就 無點 統砲

原総維労政門所では本府指域の下一全面的整備間前を践行する響 朝證、全面的整備斷

第四類の最近期。化粧品類および郷土類の

九取引員に壓縮

意情順分数食料および産

り』高蔵々々、源を確して喜びめ、効果がちがつて來る▲俗に つたが、あくこの夜間奇難に戦の

らか蓄貯艦一機一の飲撃 ・利有 ませは翻げ ・ 単 ・ 名田 ・ 新 車 ・ 名田 ・ 無詳卓日 いところを刺した。こ

全員突撃 指 | 側にあつた空母ともつかず威能と | 感動観討させ

大学 (1997年 1997年 1997年





通り進捗し明春三月頃まで

医神田 西州門町 大八五三 大八五三

本にも汗と誠

があり同三時半式を開おた「冪萬=陳蓬式」

この勞苦、山の戦士に應へよ

沸る闘魂決意も新た 征く者、送る者感激の坩堝

海出行大會」は午後二時から府塔爾文所整で小磯顧聰、統領前首令官、田中政務經院院副歌者、蔡寶多慶高WOFに午館十八年も龍班へと遜軍する最長の軍権の聴きでやらやく暮れんとする廿八日、明顯、京畿、京展三額里代職の「出戦



温情籠るお守機督室で

を認めること、なった「女の親を担いた」 をはこれらの裏門眼で 人寿参、松木大匠を通じて軽低気 とことのあるものにも 金として概念、影響中島のため高 の大力を「女の親を担いた」

全北からまたも五十三萬餘圓

志願資格を擴充 無に繰脱げられてゐる飛行機

程理、法務部の

に難飲、難に第二次等較米を外持











日廳疎開の

教用品一式と木銃

建艦〜卅餘萬圓

タルラ部含古 田 村

私のソバ

(

元納へいま一息

定刻に屠蘇 元旦にも 開 府民へ聯盟から新春の心構へ は常曾 ね

復君も張切る 「サラベ」と個人

に大概切りの協君、子供の



資材 完備

信日

春総戦闘のスライカロ家で





幸運は誰?

第一知事以下学資集合個用款式を「別項の近く、置民の数値と顧真の「表睛の年は」解素公の域をうけ、日子師九段半、第一書書絵で「題行した、定示國民能鑑受別事は「制顔に傾謝の意を素し指すで、

い 寒風を衝

更に總蹶起誓ふ道廳御用納式

校庭の個々までひどき世

[八二] [大一] 銳

土俵入事ス

京城無線電機製作所

警兵 座治明場劇路日京 翩

版圖尼圖·城 SENE 俵入 寶

泉 場剔 劇





土職の第一の一下で

ニュー り世まで



第一放送朝○(徳)

村上松火即(種) 野十三年

本ニュース新ない。

病三四 元城龍電

商 座日朝

さいます。 諸カだをフス 館畵映信和

行け南万共榮圏、大陸へ

劇南城 場劇央中 正月元旦。五日間 1) 城城城城 資夜 連續 公演

總統數樂

荷造包装は

友信組

/英米敵せ殺き叩



東一唱劇團

五天學

京警